

## 平成27年度「確かな学力」実践研究事業

### 社会科 公開授業・授業研究会

授業者 藤岡市立小野中学校 落合 清貴 教諭  
平成27年11月13日（金）  
第1学年【歴史的分野】「武士の台頭と鎌倉幕府」



第1学年の「武士の台頭と鎌倉幕府」において、小中学校のつながりを意識し、幕府が滅亡に向かう原因について考え、表現する学習を公開しました。



〈類型化の様子〉

〈授業研究会の様子〉



【単元】 1年（歴史的分野）『武士の台頭と鎌倉幕府』全8時間

【本時のねらい】（本時7／8）

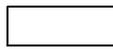
資料をもとに元寇後に鎌倉幕府が衰え、滅亡した原因を調べ、鎌倉幕府が滅亡に向かう時代の転換の様子を自分の言葉でまとめる。

【提案する手立て】

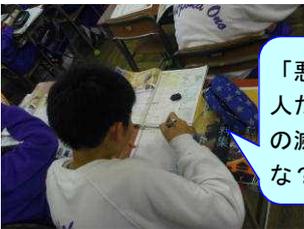
- （手立て①）小中のつながりを意識した活動の工夫
  - ・レディネス調査を基にした学習課題の設定
- （手立て②）意見を伝え合い、考えを深めるための活動の工夫
  - ・意見を出し合いキーワードにまとめるグループ活動
  - ・多面的・多角的に考えを考察するためのキーワードの類型化



・・・提案する手立てに関すること



・・・提案する手立て以外の工夫や支援など

学習活動 (児童生徒の意見・反応)	時間	主な指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
<p>1 本時の課題を把握する。</p> <p><b>【学習課題】</b> 元寇を退けた鎌倉幕府は、なぜ滅亡に向かったのだろうか。</p>  <p>T:「鎌倉幕府が滅亡に向かっていった原因について調べてみよう」</p>	3分	<p>○年表から元寇後に鎌倉幕府が衰え、滅亡に向かったことを確認する。</p> <p>○元寇後の約50年間に鎌倉幕府が衰え、滅亡に向かったことを確認する。</p>
<p>2 課題を追究する。</p> <p>(1) 学習課題に対する答えを予想する。</p>  <p>幕府の言うことに従わない人たちが出てきたんじゃないかな？</p> <p>〈生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ご恩がもらえない。</li> <li>・意見がばらばら。</li> <li>・従わない人が出てくる。</li> </ul> <p><b>【小学校での既習内容】</b> ◎レディネス調査では半分程度が理解 ・御家人が新たな領地をもらえず、鎌倉幕府に不満をもったから。</p>	5分	<p><b>手立て① 小中のつながりを意識した活動の工夫</b></p> <p>小学校での学習を踏まえ、元寇以外に絞って予想させ、鎌倉幕府滅亡の原因について考えました。</p> <p>○予想させることで、本時の学習課題を追究する意欲を高める。</p>
<p>(2) 元寇後に鎌倉幕府が衰え、滅亡に向かった原因を調べる。</p>  <p>「悪党」ってどんな人たちだろう？幕府の滅亡に関係あるかな？</p>  <p>借金を帳消しにする「徳政令」も関係がありそうだな。</p>	10分	<p>○「元寇後の鎌倉幕府と御家人の関係の変化」については、小学校での既習事項なので、予想をもとに最初におさえる。但し、半分程度の生徒の理解が曖昧なのでご恩の奉公の関係をしっかりとおさえる。</p> <p>○「元寇以外の原因」をじっくりと話合い、考えさせる。</p> <p>○教科書、資料集を活用させ、鎌倉幕府が衰え、滅亡に向かった原因を調べさせる。調べたことは、ワークシートに記入させる。</p> <p>○調べる資料を確認するなどして、調べ学習の見通しをもたせる。</p> <p>○調べて、大切なところはラインを引かせる。</p> <p>○必要に応じて補助資料を用いる。</p> <p>◎調べ、まとめることが難しい生徒の対応として、ペアでの協力を促すとともに、教師が積極的に声をかけ、アドバイスを送る。</p>

(3) 調べたことをグループで意見交流し、まとめる。



生活が苦しい御家人は、徳政令で借金がなくなると助かるんじゃないかな。

でも、お金を貸していた人々はどうなるの？

教科書には、経済力で豊かになった武士が成長したと書いてあったよ。



8分

手立て② 意見を伝え合い、考えを深めるための活動の工夫

自分でまとめた鎌倉幕府滅亡の原因について、意見を出し合い、キーワードにまとめました。

- 意見を交流するときは、どの資料から考えたのかを言えるように意識させる。
- グループでまとめた意見を短冊に書かせ、黒板に貼らせる。

幕府に従わない悪党

分割相続で生活に困った

徳政令を出すのが逆効果

経済力で豊かになった武士が成長

(4) 全体で鎌倉幕府が滅亡に向かった原因について、確かめる。



10分

各グループで出されたキーワードを類型化し、滅亡に向かった原因について考えました。

- 短冊を類型化する。
- 類型化した意見をもとに、根拠となった資料の確認や、内容を検討するなどし、理解を深めさせていく。

T: 「みんなの書いたカードをまとめると、徳政令や分割相続、悪党などが関係ありそうだね。」

【指導プラン p78】

3 本時のまとめをする。

(1) 学習課題に対する答えを、自分の言葉でまとめる。

新聞記者になって、「鎌倉幕府滅亡」の様子を伝える記事を書こう！



【生徒の考えた小見出し】  
「ご恩が出せない、ご恩と奉公」  
「徳政令は勢力衰退」  
「幸と不幸の徳政令」など

12分

全体での交流を受け、鎌倉幕府滅亡の原因を新聞記事の形式で小見出しと記事を自分の言葉でまとめました。

- 自分の言葉でまとめさせることで、表現力を高めるとともに歴史を大観できる生徒の素地を養っていく。
- 小見出し・記事の内容は小学校の学習から発展するように、「ご恩と奉公の崩れ」以外のことを書くように意識させる。
- 本時では、新聞記事の小見出しをつける作業を優先させる。
- ◎自分の言葉でまとめることが難しい生徒には、本時の学習を振り返らせて、キーワードなどを一緒に探していく。
- よく書けている生徒を指名し、発表させる。

◇【思考・判断・表現】

鎌倉幕府が滅亡に向かう様子を書く新聞記事や小見出しを、自分の言葉で適切に表現できる。  
(観察・発言・ワークシート)

【指導プラン p15, p78】  
【実践の手引き p29】

		○話し合いに一生懸命に取り組んでいた様子や、良い記事が書けた様子などを具体的に褒めて、次回以降の学習の意欲を高める。
4	学習の振り返りを行い、次回の学習課題を聞く。 2分	○次回以降、鎌倉幕府が滅亡した後の日本の政治はどのように進んでいったのかを調べていくことを伝える。

〈板書計画〉

**学習課題** ◎元寇後に鎌倉幕府が衰え、滅亡に向かった原因を新聞記事にまとめよう。

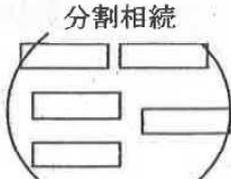


1281年 弘安の役  
↓ 50年間で幕府衰える  
1333年 鎌倉幕府滅亡

予想  
新しい土地をもらえなかった御家人が幕府に不満をもったから。  
◎ご恩と奉公の関係が崩れた。

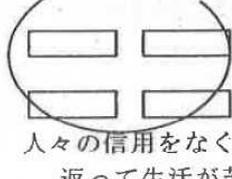
**幕府が衰えた原因**

分割相続



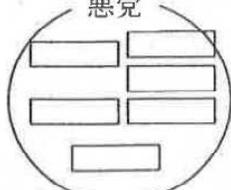
御家人の領地は次第に狭くなり、生活が苦しくなる。

徳政令



人々の信用をなくし、返って生活が苦しくなる。

悪党



幕府・北条氏に対する不満から、反抗する勢力が現れる。






〈実際の板書〉

◎元寇後に鎌倉幕府が衰え、滅亡に向かった原因を新聞記事にまとめよう。

**元寇**  
1281年 弘安の役  
↓ 約50年間で衰える。  
1333年 鎌倉幕府滅亡

**予想**  
一所懸命命じた御家人にご恩(今更だ)を与えられなかったから。(外国との単独)  
幕府と御家人の関係(ご恩と奉公)が崩れる

**幕府が衰えた原因**

- ① 御家人の領地が狭くなり、生活が苦しくなる。
- ② 徳政令により、人々の信用をなくし、生活が苦しくなる。
- ③ 悪党の出現により、幕府・北条氏に対する不満から、反抗する勢力が現れる。

**徳政令**

徳政令とは、幕府が借金や高利貸を許さず、返済を免除する政策のこと。結果として、御家人の信用を失った。

**分割相続**

御家人の領地を子孫に均等に分割して相続すること。結果として、領地が狭くなり、生活が苦しくなる。

**悪党**

幕府や北条氏に対する不満から、反抗する勢力が現れる。

後醍醐天皇  
楠木正成  
足利義氏  
新田義貞

## 授業検討会

### 【授業研究会での意見】

<よかった点>

- ・レディネステストを活用し、生徒の実態を十分につかんだ上で構成された授業だった。
- ・小学校での既習内容を生かし、元寇以外の原因としたことで、本時の活動が焦点化されていた。
- ・自分の考えをしっかりと話し合う活動が定着していた。
- ・短冊を使ってグルーピングすることで、自分たちが考えたことを再構成できていた。
- ・小見出しをつなげていくことで、時代を大観できるという学習の流れがよかった。

<改善点>

- ・小中のつながりを意識するとともに、時には分けすぎずに繰り返すことも必要である。
- ・生徒の活動に優先順位をつけて精選していくことも必要である。
- ・資料の活用をねらっていたが、教科書やその他の資料も読み取る力をしっかり身に付けていく学び方についても工夫する必要があると感じた。

### 【参加者の声】

- ・7年間のつながりをしっかりと把握して授業することで、児童生徒の理解が深まると実感した。
- ・「学習内容」のつながりと共に、「学び方・考え方」の小中連携も考えていけると良い。
- ・既習事項や生徒の定着度を教師が把握していることで、授業をより充実させたものにできるということが分かった。
- ・生徒の学習に対する姿勢が、既習の内容を効果的に振り返らせるかで、変わることを感じた。
- ・授業への生徒の意欲が高く、素晴らしかった。生徒の力を信じて、生徒がたくさん活躍する授業づくりをしたいと刺激を受けた。



### 【授業者の感想】

小中のつながりをテーマに授業研究をしてきた。今日の授業研究会の意見を受け、小中の学習内容の違いとつながりを明確にし、きめ細かく考えていく必要があることが分かった。また、高校での学習内容についても研修を深める必要があると感じた。最後のまとめ方については、何をどのように評価していくのかを教師がしっかりとつことによって、生徒の活動のゴールが明確になることも改めて学んだ。さらには、このような授業を繰り返し練っていく中で、子どもたちに主体的な活動させていくことの大切さを学ぶことができた。

